

平成29年度はるにれの里家族会連絡協議会 第4回役員会 記録

日時：平成30年2月17日（土）10：00～12：00

場所 法人本部

出席（敬称略）：

連絡協議会：桶谷、富田、朝倉、古矢、畠山、佐藤（地域親の会）、八重樫、松原、宮内、上村、古林

法人：木村、金子、加藤、橋本、菊池

1. 会長より

2. 家族会連絡協議会ホームページ開設の報告

ホームページ開設 個人ごとにIDとパスワードを発行して利用する（ポリシー）

議事録 過去の資料アップしてある

コンテンツについては今後内容を募集する（メールやFAXで意見要望を募集）

お悔やみ情報などを共有することも検討している

- Q) 家族会代表に各個人のIDを送って配布しているが、共有することはできないか
～セキュリティ上問題もあるのでポリシーに従って欲しいが、
実際の運用は各家族会に任せる

3. 入院互助会運営見直し

状況と改正案 別紙

運営委員 委員長 副委員長 事務局 監査の設置が必要だが明確に決まっていない
今回の役員会で委員を決定する（桶谷）

規約について

緊急的に作ったもので規約見直し必要と考えるので、運営委員会で修正案を検討する
信託財産の運用と似ているので信託契約がベースとなるのでは。解散等も盛り込む必要
あると考えている

運用状況について

残高は増えているが 今後の資金確保と給付のバランスに問題があると考えてるので、
給付制限や加入終了も検討する

厚田はまなす園以外の加入者について

25人くらいで最近2年間は加入者なし

入会時の12万円のハードルが高いと思うが、公平性を保つのに必要

もともと、はまなす園の制度を維持する目的であるので、その意味では目的を達成
していると考え

今後入院する人数増えると思うので制度は継続して欲しい（木村理事長）

加入していなかったが急な入院で加入という柔軟な対応を認めて欲しい

～ それが財源を圧迫する要因になるので、本来の加入者を大事にしたい

ただそのままでは困るので、他の制度の利用や方法を考えたい（桶谷）

他の制度の可能性

現状は法人の職員が付添をしている。完全看護でも意思疎通に求められることあり
NPO等で重度訪問介護を行う、付き添いの協会に依頼するということも検討
障がい支援区分6と行動障がい点数10点以上の人は重度訪問介護が入院時使える
札幌市に関しては重度訪問介護使ったら行動援護使えないという制限をかけている
札幌市は入院時コミュニケーション（本人と医者とのやりとりを支援）が使える
重度訪問介護できる職員少ないことも問題
結果的に現在満足な制度は存在していないので、今後制度の要望や事業化などを検討する必要がある

入院互助会委員を決めて規約案を検討し、総会で決議する

委員長 桶谷

副委員長 福江 八重樫

事務局（法人） 橋本 菊池

監査委員 朝倉 宮内

※ 法人の事務局が、成田事務局長から橋本課長に入院互助会担当変更

4. 家族会アンケート結果の「提言」の進捗状況

各家族会の状況

地域就労支える会

毎年開催している研修会で、アンケート結果を報告した

就労フォローアップに関しても説明を受けた 参加者20名くらい

石狩支援センター家族会

Q)事務局からアンケート結果を回覧したいと言われた

～ ホームページ上にアップされている文書を利用して欲しい

ゆい親和会

研修会で報告

法人から（木村理事長）

地域移行がいいということにはならないような危惧として、国はGHをミニ施設化することを考えている

高齢者介護施設と同様、日中サービス付きで20名規模2ユニットのGHとなるが、現状より手厚い支援ができることは確か

平成29年度は試練の年 人材確保に注力しているが危機的な状況

保育所の開設や産休育休の制度を正職員に入れて女性が働きやすい環境を整備

人員確保でGHは崖っぷち、人権侵害などへの教育も問題

来年度よりGHの職員増、GH職員給与増

（金子統括）

人事確保の問題で採用しても退職者や内定辞退で欠員状態が続いている

アンケート内容 所長課長に読み込んでもらっている

「ほしのみ」へ利用者と親の高齢化の状況調査を依頼、帰省などへの影響を検討している

利用者年齢節目による身体状況への対応を個別支援計画に

去年は事故で2名亡くなったので、救急救命用人形使用し実技研修を定期的に行い、対応を強化していく

医療連携会議で生活習慣病やがん検診等を検討している

法人全体三役で再度アンケート結果を念頭に事業計画をたてるよう説明

各家族会との情報交換を進め、コミュニケーションの強化をしている

(桶谷) 人材不足は抜本的対策が必要

家族会を含めて補助人員の組織を検討するとか、機器の利用などで職員でなければならぬことを区分けすることが重要と考える

補助人員で不足する労働力を補完するとの、研修などの開催で品質確保が重要
健康対策では、例えば誤嚥予防として喉を使うこと（歌などで声を出させる）など具体的なことを行って報告して欲しい

一歩進めて健康対策でカラオケ室などの設置があっても良いのではないかと

そういった活動に補助人員を使うなどして、サービスを向上と人員不足への対応を考えて欲しい

「レラ」で実践している体操は、利用者も何かの折に運動を要求するようになったカラオケなどの声出し運動の成果もあるようだ

(木村理事長)

利用者が末期がんで亡くなった、今後定期検診などの対策を考えている
とは言え検診には検査が大変なのと高額である

(桶谷)

全員一律ということではなく、遺伝的にリスクが高いとか人生観などを家族と相談して対応して欲しい

(朝倉)

人材募集ということでは、厚田で職員募集に関してビラを配るということだけではなく、地域の情報に関して提供を依頼したらいい

(木村理事長)

国の制度は、互助としての共生型福祉を進めている

障がい者福祉事業も介護福祉事業を行える

地域の高齢者に参加してもらい手伝ってもらおうということも必要

(桶谷)

今後どうしていくかの議論する場に家族会としても協力していきたい

(木村理事長)

来年度は、相当人材確保厳しい。外国人採用も検討していく必要と考える

(桶谷)

外国人など戦力にするのが大変な方向ばかりでなく、地域の高齢者という人材をどう使うかをもっと考えるべきではないか

5. 今年度の計画達成・来年度計画

会員への情報提供～HP作成

成年後見学習会～次年度に

成年後見は制度そのものを学ぶより、相続など実際に利用する場面が重要

家庭の実情に合わせた内容を相談できる方法を紹介することを考える

またある程度のケーススタディをまとめておくことなども行いたい

- ・報告事項 来年度に向けての意見等 メールやFAXで事務局に出して欲しい
- ・来年度計画 案を作り役員に送付し、次回役員会までに案をまとめる

6. 次回 4月21日10時～本部